

## 講座

### 「集団遺伝学的手法の言語地理学への応用」

遺伝学系のソフトで言語系統樹を建てるのが近年盛んに行われるようになってい  
ます。その際の注意点について遺伝学者に3コマ連続でレクチャーしていただきます。

担当者：木村亮介（琉球大学大学院医学研究科准教授）

日時：2020年3月27日（金）13時から18時

場所：青山学院大学青山キャンパス総研ビル7階第12会議室

<https://www.aoyama.ac.jp/outline/campus/access.html>

参加費：一般4500円、学生3000円（おつりのないようにお持ちください。）

予約不要・どなたでも参加可能です。当日直接おいでください。

内容：集団遺伝学とは、生物の集団を対象として、その集団の遺伝子構成が変化するプロセスを理論的に説明し、あるいは過去に起きた変化を再現する学問である。遺伝子を単語と置き換えれば、言語データに対し集団遺伝学的手法が応用できる。しかしながら、集団遺伝学自体が抱える問題に加え、その言語学への応用にはまだまだ課題が多い。例えば、集団遺伝学では系統樹を描くことが一般的に行われ、言語学にも応用されてきたが、系統樹は分岐のみで表現されるため、交雑（言語接触）の多い場合には正しい歴史が反映できないといった問題点がある。本レクチャーでは、集団遺伝学の理論と手法を概観した上で、遺伝子と言語の伝達における共通点と相違点をまとめ、集団遺伝学手法を如何に言語地理学に応用すべきかを考える。